

高原城址再生プロジェクト

【発足のきっかけ】

私たち直島地域活性化プロジェクトはアートの島として有名な直島で、“和 cafe ぐう”という古民家カフェを運営している。その和 cafe ぐうの裏山の頂上付近には、桜や梅、その他様々な季節の草花が植えられている高原城址という広場がある。高原城址とは、1500年から1600年にかけて直島を統括していた高原氏の城があったことから、その名が由来している。ここは瀬戸内海を一望することができる直島の数少ない展望スポットで、島民のお気に入りの場所である。私たちもこの場所へカフェのメニューで使う梅の実の収穫に行ったり、お花見に行ったりと数々の恩恵を受けてきた。しかし昨年までたくさんの実をつけていた10本近い梅の木が病気にかかり、今年は実をつけることができなかった。また広場を囲むようにして植えられた椿や紫陽花は十分に剪定されておらず、広場全体がうっそうとした雰囲気になってしまっていた。ここを管理している地元老人会の会長によれば、現在高原城址までの急な階段を登ることができるメンバーは数人しかいないとのことだった。加えて広場は植物の手入れが十分に行き届いていない状況にあるとのことだった。そこで私たちが高原城址の現状を変えることはできないかと考え、直島地域活性化プロジェクトのメンバーで高原城址再生プロジェクトを始動させた。



高原城址までの長く急な階段



高原城址から瀬戸内海を望む



手入れが行き届いていない広場

【活動の目的】

高原城址を人々が集まる明るい場所にするのが本活動の目的である。今年の3月に島民にヒアリングを行ったところ、高原城址はかつて子どもの遊び場であったことが分かった。また、さらに昔は演芸場があり、人々が集まる明るい場所であったことも分かった。だからこそ、荒れてしまった草木の手入れをし直して光が届く明るい場所にするによって、再びたくさん島民に足を運んでもらえる場所にしたいと考えた。加えて高原城址は、桜の木を始めとする季節の花々や広場から見える瀬戸内海の景色という魅力を持っている。これらの魅力を再び取り戻すことで、地域の人だけではなく島の風景を楽しむにきた観光客にも立ち寄ってもらえる場所にしていきたい。

【活動内容】

再び人々が集まる明るい場所にするために現在行っている活動が2つある。1つ目は、高原城址の景観を整えること。2つ目は、人々に足を運んでもらう仕組みをつくることだ。

まず1つ目に関しては、大学から新型コロナウイルスの感染拡大防止のために活動休止を要請されていた期間を除き、継続的に広場の草抜きを行っていることが挙げられる。以前は月に一度老人会のメンバーのみで草抜きが行われていた。そこに私たちが積極的に参加することで、広場は比較的きれいな状態を保つことができるようになった。また枯れた梅の木の手入れが初夏に完了し、12月には既存の桜の木との調和を図りながら、新たに桜の木を植えることを予定している。これは10本近くあった梅の木が枯れてしまったため、高原城址を新しく桜の名所にしたいという島民の思いを受け継いだものだ。しかし活動時間が制限されていることもあり、伸びきった樁や紫陽花などの植物の剪定が間に合っていないことが現在の課題として挙げられる。

次に2つ目に関しては、12月に直島の小学生と桜の植樹イベントと梅の木の廃材を用いたワークショップを開催することを予定している。桜の植樹イベントでは、小学生が自らの手で植樹を体験することで植えた桜の木に愛着を持ってもらい、広場へ足を運んでもらうきっかけにしたいと考えている。また梅の木の廃材を用いたワークショップでは、枝を再利用した簡単な工作を小学生と一緒に取り組みたいと考えている。工作中には史跡である高原城址についての紙芝居を行い、高原城址の歴史を学習してもらう時間を設ける予定だ。また島民や観光客が高原城址に対してどのような意識を持っているかを知るために、現在アンケート調査を行っている。11月末まで調査を続ける予定であり、集計結果は今後の活動方針を決める際の参考にする。



草抜きの様子



島民用アンケートのポスティング作業

【今後の展望】

現地では活動していくうちに、現在の高原城址には2つの課題があることが分かった。1つ目は、整備を行う人の人手不足。2つ目は、高原城址を守る意識の低下である。和 cafe ぐうから距離が近く、高原城址で継続的に活動できる私たちが上記の活動を行うことで、整備を行う人が不足しているという1つ目の課題を解決することができる。今年度は引き続き島民と一緒に広場の整備を行い、この場所の魅力と問題点を再発見してもらうことで、島民が高原城址に関わるきっかけを作っていきたい。特に小学生には地元の史跡である高原城址を守り育てていく過程について、イベントを通して共に体験してもらう。その結果、高原城址から新しい地域のつながりを生み出すことができると確信している。来年度以降は高原城址に関わる人の輪をさらに広げるとともに、島民にも高原城址をイベントの開催場所として使ってもらうことを視野に入れて考えている。具体的には高原城址近くにある手入れされていない竹林の竹を活用した流しそうめんイベントの実施や、一面に広がる瀬戸内海を背景にしたミニコンサートの開催などである。島民に高原城址へ足を運んでもらうきっかけを作り、地元の史跡である高原城址に更なる価値を見出してもらうことができれば、この場所を守る意識の低下という2つ目の問題を解決することができる。今年度は広場の整備や地域の方々との関係づくりなど、これからの活動を形作る大切な年となる。本活動で高原城址に人々が関わる仕組みを作り上げることができれば、活気あふれる明るい高原城址が次の世代へと受け継がれていくだろう。